

実践報告

演奏家と音楽教員が共同した音楽のアウトリーチの実践的研究
—特別支援学校におけるコンサートを中心に—

二宮貴之

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成27年1月13日受理)

Practical Study Relating to the Educational Benefits of Music Outreach Activities
— With a Focus on Concerts at Special support Schools —

Takayuki NINOMIYA

(Department of Children's Studies, Faculty of Children's Studies, Nishikyushu University)

(Accepted January 13, 2015)

Abstract

This study derives the effectiveness of music outreach activities in special support schools through interviews and questionnaires. Investigations revealed music outreach activities can be expected to nurture “sensitivity”, “expressiveness” and “imagination” in students. Moreover, in regard to the securing of budget being raised as an issue for the continuance of concerts, a proposal has been made regarding the possibility of music outreach activities linked to the community as a new trial moving forward.

Key words : Music education 音楽教育
Outreach activities アウトリーチ活動

1. はじめに

現在、全国的に各教育機関、福祉施設などにおいて演奏家がコンサート会場に向いてコンサートを行う音楽のアウトリーチ活動が盛んに行われており、個人、団体問わず様々な分野の演奏家たちが各地で活動をしている。これまでの先行研究では、岡部ら¹⁾ (2010)「学校と演奏家の連携による音楽教育の可能性」、川添ら²⁾ (2010)「鑑賞授業における音楽アウトリーチ活動の実践研究」などで音楽教育におけるアウトリーチ活動の有用性が示されている。また、津上 (2006)³⁾が「ギルドホール音楽院のアウトリーチ教育」において、イギリスの大学教育の音楽のアウトリーチ活動がどのように行われているのかについて報告している。

アウトリーチとは、「手を差し伸べる」という言葉の意味から由来するものであり、音楽のアウトリーチとは、演奏家が教育現場や子育て支援施設などに向いてコンサートを行い、生演奏の効果によって聞き手の心理面や教育面などに働きかける活動のことを指している。これまで多くの先行研究の中で示された結果を基盤にしながら、今回は、あまり報告例のない特別支援学校におけるコンサートの事例を取り上げ、音楽のアウトリーチ活動がもたらす効果やその課題について検証したい。

今回のアウトリーチの演奏会を通じた実践的研究では、F特別支援学校に勤務する音楽担当の教員Aの申し出が発端となっている。アウトリーチ活動の実践に際し、先行研究を検証した結果、アウトリーチ活動の教育的効果や教育プログラムについて様々な形で報告されているが、どのようにして音楽のアウトリーチ活動が形になっていくのかについての可視化された具体例が少ないことが分かった。そこで、本研究では教育現場と演奏者を繋ぐパイプ役となる教員Aを通じてアウトリーチの活動がどのように形成されていくのか、また、効果と課題は何かについてインタビュー調査、コンサートの実施、聴衆に対するアンケート調査を通して明らかにする。

2. 研究方法

本研究では、インタビュー調査、アンケート調査を分析し音楽のアウトリーチ活動の有用性と今日的課題について検証した。インタビュー調査は、コンサート開催前 (2012年9月26日 (水) F特別支援学

校音楽室)とコンサート開催後 (2013年1月16日 (水) F特別支援学校音楽室)の2回実施 (いずれもインタビューはボイスレコーダーを用いて筆者が実施)し、アンケート調査はコンサート開催日2012年12月19日 (水)に行った。

コンサート開催前のインタビュー調査には、特別支援学校の生徒の実態やコンサートの演奏構成について収められ、コンサート開催後のインタビュー調査では生徒の実態と反応、教員の感想、今後のコンサートについての課題などが収められている。それぞれのインタビューは、筆者が教員Aに録音の許可を取り、後日、録音内容を時系列で文字化した。アンケート調査については、集計項目と記述の項目を設けた。

3. コンサートの概要について

コンサートは、2012年12月19日 (水)にF特別支援学校の体育館で10:00~11:30まで開催された。演奏者は、ヴァイオリン奏者1名、テノール1名、バリトン1名、ピアノ1名の計4名で行った。演奏曲目は、「朝のあいさつ」、バレエ音楽「シルヴィアより」「ピチカート」,「ロンドンデリーの歌」,「チャールダッシュ」,「美しき五月に」,「日記帳」,「秋の月」,「Oh Holly Night」,「You raise me up」の計9曲を演奏した。当日は、F特別支援学校の生徒67名と教職員の方が聴衆として参加した。演奏会の司会は、教員Aが行い、演奏者が曲の紹介を行ってから演奏を行っている。

写真1は、バリトンの独唱風景で「美しき五月に」を演奏している。

写真2は、テノールとバリトンの2重唱風景で「Oh Holly Night」を演奏している。

写真3は、テノール、バリトン、バリトンの3部合唱風景で、「You raise me up」を演奏している。

写真4は、ヴァイオリン独奏の風景で「チャールダッシュ」を演奏している。

写真1~4を見るとわかるように、演奏者と客席が非常に近く、奏者の呼吸や表情が直接伝わる空間で演奏が行われた。



写真1 バリトン独唱



写真2 テノール・バリトン2重唱



写真3 テノール・バリトン・バリトンの3部合唱



写真4 ヴァイオリン独奏

4. 結果および考察

①A教員に対するインタビュー調査結果（コンサート実施前）

表1は、コンサートを実施するにあたり、教員Aに対して行った事前のインタビュー調査結果である。インタビューの内容を概観すると、生徒の実態、音楽の授業内容について、そして、最終的に生徒の実態に即したコンサートのプログラムを構成するまでのプロセスが示されている。教員Aの発言からは、マナー学習の一環ということと、生徒に生演奏を聞かせて何かを感じ取って欲しいという2つの視点からコンサートの実施を希望していることが分かる。

また、教員Aの音楽の授業の中では、鑑賞という形で音楽を傾聴する活動が取り上げられており、主にJpopの音源を生徒自身が持参し、お互いにお気に入りの曲を聞き合うなどの生徒たちにとって身近な音楽を取り上げることで興味・関心を喚起させていた。一方、クラシックの音源を持参する生徒はほとんど見られないという特徴が挙げられる。

教員Aによると、クラシックの音源を持参する生徒は少ないが、ビバルディー作曲の『四季』や、ベートーヴェン作曲の『交響曲第9番』などは生徒が興味を持って鑑賞しており、特にドビュッシーの『月の光り』などを聞かせた際は、「曲の雰囲気を感じ取り、静まり返って傾聴していた」という発言から、Jpopの音楽のみならず、クラシック音楽にも興味を示していることが分かる。

これらを受け、マナー学習の一環ということ、コンサートの開催時期、演奏者などを考慮してプログラムの構成を大まかに決定するに至った。

表1 コンサート実施前のインタビュー調査内容

インタビューー	教員 A
・生徒の様子について教えてください。	・軽度の知的障がいを持つ生徒がいる学校です。 ・音楽的な経験が少ない生徒がいると感じています。
・なんでアウトリーチを行おうと思ったんですか。	・本物の生のコンサートに触れさせたいと思ったからです。 ・教育の現場ということもあり、マナー学習の一環としても捉えています。
・普段の音楽の授業ではどんな取り組みが行われているのですか。	・合唱や器楽も取り入れますが、鑑賞用のCDを持ってきて様々なジャンルの曲を授業で聞いたりしています。みんな鑑賞の活動には非常に積極的で、聞いた後は感想を記述しています。
・授業後の記述ではどんな感想が出ていますか。	・情緒面の感想は少ないです。感想で目立つのは、音楽を聞いた場所や番組名についてが多いです。それから、「お父さんと車の中で聞いた」とかもありますね。
・鑑賞の授業ではどんなジャンルの曲の音源を持ってくるんですか。	・なじみの曲がお気に入りみたいで、多くがJPOPの曲です。みんな体を揺すったりしながら体でリズムをとったりして聞いていますよ。 ・親御さんのCDを持ってくる子もいますね。最近の曲に限らない傾向があるみたいです。 ・懐メロを好む子もいて、その子が良いと思う曲を持って来ているみたいです。
・CDの鑑賞と発表の授業の中で生徒に対する気づきはありますか。	・普段集団の中では気づかない、生徒の意外性がありました。大人しい子がヘビメタを持って来たり、優しい子がごりごりのラップを持って来たりして、「えっ、この子がこの曲を持ってくるんだ」と驚いたりします。
・それは以外ですね。なぜなのでしょう。	・環境面が大きいんじゃないかと思います。親御さんの聴いている音楽が自然と耳に入ってきたりするからです。
・ところで、クラシックを持ってくる子はいないんですか。	・今まで授業にクラシックのCDを持ってくる子は一人もいないですね。JPOPが多いです。
・普段の授業でクラシックを取り上げることはありますか。	・授業では毎回聞きます。生徒の反応が良いものは、例えば、ピバルディーの「四季」第九、魔笛の「パパバ」、魔笛の「夜の女王のアリア」、ホルストの「木星」ドミュッシーの「月の光り」とかで、心が落ち着いて眠ってみたい、普段しゃべる子でも静まり返って曲に聞き入ったりしています。とっても不思議です。
・おもしろいですね。曲によって生徒の様子が変わるんでね。	・ほんと、曲調によって生徒の反応に差がありますよ。
・鑑賞の授業の他はどのような授業構成をとっているのですか。	・普段の授業は、2時間構成で表現や鑑賞をバランスよく配分しています。例えば、歌唱を50分して鑑賞を20分、合唱、リトミック、合奏、まとめを30分間で行ったりしています。今、アルゴリズム体操を取り入れていて、リズム通りに動くリトミック的要素を取り入れた活動はかなり生徒の反応が良いです。
・今回のアウトリーチはどんな目的で行おうと思いますか。	・生徒たちの自立支援を見据えた鑑賞教育の一環としてアウトリーチを取り入れたいです。生徒たちが生演奏を通じて視覚的にも聴覚的にも体感でき、会場の設営や演奏者の誘導やプログラムの作成の手伝いなどを行い演奏会に参加する形で行えれば良いと思っています。 ・生徒たちが演奏会をきっかけに少しでも日常生活の中に音楽を取り入れたりして生活が豊かになってほしいです。授業の中で音程とか気にせず大きな声で歌ったりして欲しいと思っています。
・演奏会の時期はいつ頃がいいですか。	・クリスマスあたりに実施したいです。
・クリスマス時期にですね。調整してみます。	・楽器もあった方がいいんですけど、バイオリンとかの旋律楽器がプログラムの中にあるといいんですけどねえ。
・いいですねえ。プログラムはどんな感じでいきましょうか。	・曲目は、本物のクラシックの曲で歌曲とかアリアとかあると反応がいいと思います。あと、クリスマスソングを入れて欲しいですね。技巧的なものとか、外国語曲、日本歌曲とかも形式美が伝わるというかなと思っています。
・だったら「oh holly night」とかドイツリートとか、バイオリンだったら「チャールダッシュ」とかが良いかもしれないですね。また、演奏者が確定したらそこで細かい調整をしましょう。	・よろしくお願ひします。伴奏者とかも必要だと思うので、細かいことは、また後日連絡し合ひしましょう。

②教員に対するアンケート調査結果

コンサート実施後会場にて教員（管理職含む）に対してアンケート調査を実施した。以下にそれぞれの調査項目の内訳と自由記述を示す。

図1は、コンサートに参加した教員17名に対して実施したアンケート調査結果であり、「過去に音楽のアウトリーチを経験したことはありますか」の調査項目の内訳である。「はい」と回答したものは17名（100%）、「いいえ」と回答したものは0名（%）という結果であった。このことから、コンサートを聞いていた教員の全員が過去に1回以上、音楽のアウトリーチを経験していることとなる。また、今回の対象校ではアウトリーチのコンサートが4回目の実施ということであり、勤務校の移動等ない場合は、ほとんどの教員が関わっていることが推測される。

図2は、コンサートに参加した教員17名に対して実施したアンケート調査結果であり、「音楽のアウトリーチの継続実施についてお聞かせください」の調査項目の内訳である。「是非継続したい」と回答したものは7名（41.1%）、「できれば継続したい」と回答したものは10名（58.8%）、「あまり継続したくない」、「どちらともいえない」と回答したものは0名であった。調査結果から、音楽のアウトリーチを大多数の教員が望んでいることが明らかとなった。

図3は、コンサートに参加した教員17名に対して実施したアンケート調査結果（複数回答可）であり、「どのような課題を解決すれば、コンサートを継続しやすくなりますか」の調査項目の内訳である。「コンサートの実施に必要な予算の確保」について11名、「授業を実施するための授業時数の確保」について9名、「児童・生徒の柔軟性」について0名、「教科の枠を超えた合科学習のしくみ」について2名、「その他」について1名の回答があった。アウトリーチのコンサートを実施するにあたり、課題となっているのは、予算と時間の確保が大きな課題となっていることが見て取れる。また、その他の自由記述では、

- ・「やって欲しい、やりますという宣伝、学校と演奏家双方の積極的な具体的な行動が必要だと思います」

という回答があり、アウトリーチのコンサートの在

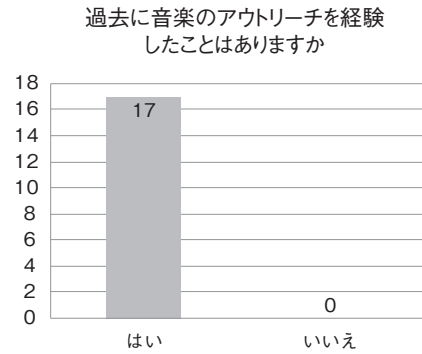


図1 過去のアウトリーチのコンサートの経験の有無について

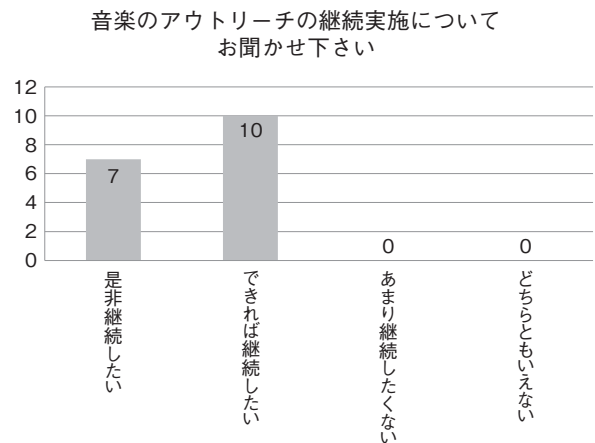


図2 音楽のアウトリーチの継続実施の意向について

音楽のアウトリーチは、生徒たちのどのような能力を育むことに効果があると思いますか

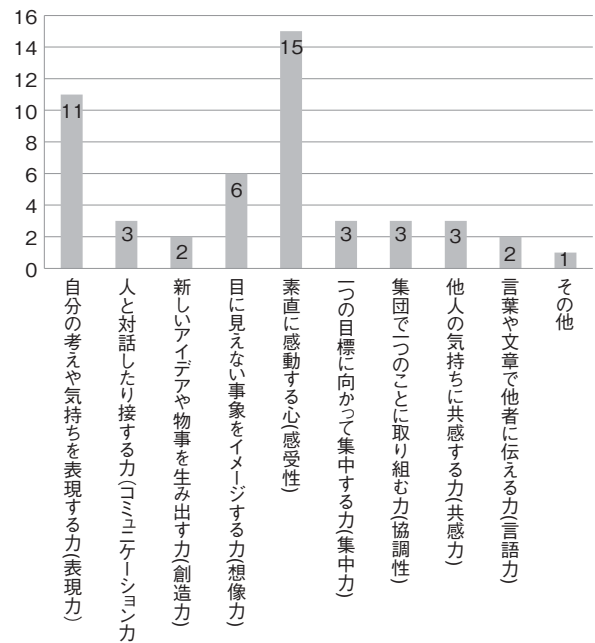


図3 音楽のアウトリーチがもたらす教育的効果について

り方として一方的な働きかけだけではなく、演奏家と受け入れ側の双方間でそれぞれ刺激し合うことが必要性であるという意見が挙げられた。

図4は、コンサートに参加した教員17名に対して実施したアンケート調査結果（複数回答可）であり、「音楽のアウトリーチは、生徒たちのどのような能力を育むことに効果があると思いますか」の調査項目の内訳である。「自分の考えや気持ちを表現する力（表現力）」について11名、「人と対話したり接する力（コミュニケーション力）」について3名、「新しいアイデアや物事を生み出す力（創造力）」について2名、「目に見えない事象をイメージする力（想像力）」について6名、「素直に感動する心（感受性）」について15名、「一つの目標に向かって集中する力（集中力）」について3名、「集団で一つのことに取り組む力（協調性）」について3名、「他人の気持ちに共感する力（共感力）」について3名、「言葉や文章で他者に伝える力（言語力）」について2名、「その他」について1名という結果であった。アンケートの上位結果から「感受性」「表現力」「想像力」と続いており、音楽のアウトリーチを通じた期待される教育的効果の実態が示された。

図5は、コンサートに参加した教員17名に対して実施したアンケート調査結果であり、「今回の音楽のアウトリーチは生徒の教育に必要ですか」の調査項目の内訳である。「とても必要」と回答したものは16名（94.1%）、「やや必要」と回答したものは1名（5.8%）、「あまり必要ではない」0名（0%）、「必要ではない」0名（0%）という結果であった。「とても必要」と回答したものが大多数を占め、音楽のアウトリーチが特別支援学校において必要性が非常に高いものであることが示された。

- ・「これから機会があれば行ってみよう（行きたい）」と思える生徒がいたと思います。教育の現場以外で演奏会等を経験する機会はかなりの生徒にとってないので、このような機会ではじめて「知る」ことになっていると感じます。
- ・生の演奏に触れる機会は卒業しても少ないと思います。貴重な機会となると思います。
- ・就労に向けた取組が多い中、想像力、感受性を育み、和やかな気持ちになるひと時を持つことは、心の教育として必要だと思います。

どのような課題を解決すれば、
コンサートを継続しやすくなりますか

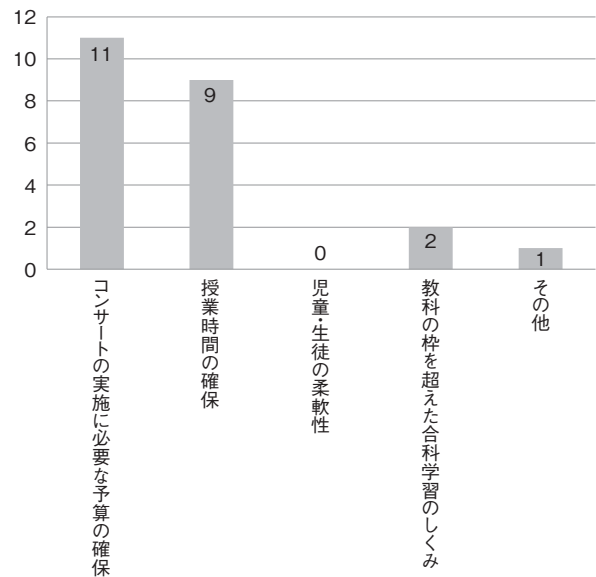


図4 コンサートの継続実施の課題について

今回の音楽のアウトリーチは
生徒の教育に必要ですか

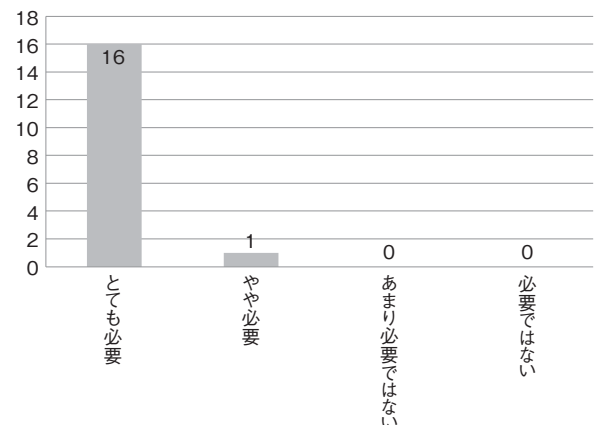


図5 音楽のアウトリーチの必要性について

- ・本物を知り、音楽に興味をもったり表現力を学んで欲しい。
- ・興味を持つ、持たないは生徒それぞれですが、経験としてとても必要だと思います。音楽に触れない生徒はいないと思うので、好きな曲種を選択する力や他の人の感性に共感する力をつけるという意味でも有効なのではないでしょうか。
- ・生演奏は生徒にとって良い刺激になると思います。
- ・様々な分野を直接見たり聴いたり体験することが良い勉強になるから。

自由記述の中では上記の内容が示され、生徒たちの卒業後を意識し、在校中に音楽の経験を積んで欲

表2 コンサート実施後のインタビュー調査内容

<p>・演奏会後の先生方の反応について教えてください。</p>	<p>・演奏会後、先生方とお話しして出てきた感想では、「無料であんな演奏を聞いて良かった」、「私も音楽好きだから、たまにクラシックの演奏会に行ったりしますよ」、「来年もまた絶対演奏会やって欲しい」、「マナー学習の一環になるねえ」、「音楽は情操教育の一環だねえ」などの感想をいただきました。</p>
<p>・いろんな反応があって良かったですね。生徒さんたちはどうでしたか。細かい変化とか曲ごとの様子とかいろんな視点から自由に聞かせて下さい。</p>	<p>・感想を当日書いてもらったんですけど、授業やその他の体験学習で書く感想より筆が進んでいたと思います。あと、文章に中身がありました。</p> <p>・「あんなに大きな音ができるんだ」とか、視覚優先の子は口の開け方や大きさや動きについての記述や感想を言ってくれて、聴覚優先の子は、自分が知っているフレーズについて感想を言ってくれたり、「混声4部合唱が綺麗だった」と、旋律を聞き分けていることが分かる感想をもらいました。</p> <p>・「ゲストがきて嬉しかった」と言っていた子もいたし、最後出演者が帰る時、車をおっかけて見送る子もいました。「A先生の知り合いなんですか」とか、「A先生もあんな演奏できるんですか」とかいう子もいたし、「A先生の声聞こえなかった」という子もいました。僕の声聞き分けていたので、声部の聞き取りができていたということが新しい発見でした。</p> <p>・大半の生徒が音楽にのってましたね。</p> <p>・リートとかの外国曲は言葉は分からないが、じーっと聞いていました。普段鑑賞の授業で寝てる子がですよ。</p> <p>・カラオケと全然違うという感想を言った子もいましたね。</p> <p>・アップテンポの時はリズムにのってノリノリだったけど、拍手をすべきかどうか戸惑っていた子がいました。</p> <p>・『チャールダッシュ』の速いパッセージのところで普段見せない驚いたような表情をしていたので、表情面で変化がありました。</p> <p>・1曲目は、「おおおおお」と驚きがあがり、2曲目のバイオリンの演奏では、生音の強弱の差に驚いたり、ピチカートを生で見えて驚いたりしてました。</p> <p>・3曲目では、知っている曲聞だったので「おおお」と声があがってました。</p> <p>・4曲目は、僕も「バイオリンの弓の速い動きに注目してみてください」とMCを入れたのを覚えています、速いパッセージの腕や体の動きと連動したアップテンポの演奏が視覚的にも聴覚的にも刺激されて「おおおおお」という歓声が上がってました。</p> <p>・5曲目は、マイクを通していないのに会場に響く声の不思議さを感じていました。</p> <p>・6曲目は、言葉を聞き取ってました。前回の演奏会で歌劇「魔笛」より『猫の2重唱』をやったんですけど、言葉の掛け合いとかに反応があったんです。</p> <p>・7曲目は、『秋の月』の演奏でしたが、しっとりとした日本歌曲の様式美に引き込まれてました。</p> <p>・8曲目は、4部合唱の迫力に圧倒されてました。僕の声聞き分けていた子もいましたね。</p> <p>・9曲目は、旋律の美しさにひたっていて、ラストに相応しい荘厳な音楽の雰囲気を感じ取ってましたね。</p>
<p>・いろんな反応があったみたいですね。A先生自身の感想も聞かせて下さい。</p>	<p>・アウトリーチのコンサートを行うのは4回目で、一度別の学校に出てたんですが、戻ってきたら学校の方で予算を付けてくれていて継続的に行われていたことに感謝しています。コンサートを始めた当初は、生徒たちが演奏会を静かに聞く、曲中は座って聞くなどのマナーを学ぶ視点が強かったです。実際にアウトリーチのコンサート以外でもフォークやナイフの使い方、ビジネスマナーを学ぶ経験などを行っているのも、本当にマナー学習の一環という要素が強かったです。例えばJPOPの野外ライブなどで飛び跳ねたりしながら盛り上がる場合のコンサートと、今回のような椅子に座って聞くクラシックコンサートの違いなど、経験を通してマナーが着実に身につくことがあるので、違いをしっかりと感じ取ってほしかったです。経験の中で学ぶことは、うちの学校の子たちには影響が大きいと思っています。小学校や中学校でも学んでるとは思いますが、積み重ねが大切だと思います。</p> <p>・4回目は、生の演奏をじっくりと聞く内容にしたいという思いが強かったです。</p> <p>・生演奏の力は普段のCDを聞くことの何倍も効果があると思います。今回選曲の中に組み込んでもらった、『You Raise Me Up』の半音上がって転調する箇所なんかは、とくに生徒たちは敏感に反応していて、旋律美とか音楽の形式美について反応が大きいんだなと感じました。綺麗だなあと心地いいなあとという感性を磨いて将来的に生活の中に音楽を取り入れてもらえたら良いなあと強く感じました。後は、生演奏ならではの響きや音の振動、手や体の動きなどの視覚的、聴覚的な刺激はライブでの醍醐味だと思いました。</p>

<p>・演奏会を行って良かった点はどんな点ですか。</p>	<p>・まず、生徒の反応が良かったです。普段見ないような生徒の目の輝きが一番の収穫でした。音楽にちゃんと反応してくれたことが良かったと思いました。</p> <p>・ちゃんと演奏を聞いていたのか気になる子が長い文章で感想を書いてくれて嬉しかったです。</p> <p>・生徒が自分たちでゲストにお茶出しなどのおもてなしをやってくれたのは彼らにとって大きな成長だと感じました。</p> <p>・演奏会のチラシを生徒が配布していましたが、作業学習の中で自分たちで作成したんです。しかも、生徒が有志で机や椅子並べなどの環境整備をした。演奏会を実施する中で生徒が関わり全員で演奏会を作り上げることができたのは自立支援に向けて大きな効果があったと思います。</p>
<p>・次回の演奏会に向けての改善点や企画についてあればなんでも良いので自由におっしゃって下さい。</p>	<p>・今回の演奏会は、生徒全員が関わったわけではなかったのでパンフレット作りや会場設営など含む裏方の仕事、楽譜の譜めくりなど一人一役なにかしらの役を担ってくれたらいいなと思いました。</p> <p>・教員がお客さんとして参加できるような状況にもっていければ大成功だと思います。</p> <p>・今回は、鑑賞させるがメインになっていたので、次回は、参加型の演奏会ができれば良いなと思います。例えば、学年ごとに授業でやっていることを演奏者の方と一緒に演奏するとか、全員で『We will rock you』をボディーパーカッションでリズム打ちして会場と一体になってみるなどやってみたいです。参加型の演奏会で喜びを共有できるような形にもっていきたいです。</p> <p>・あと地域の方々を招いて、生徒たちがこんな頑張っているんだってとを見ていただきたいです。まだどんな生徒がいるのか地域には知られていないところがありますから。</p>

しいという思いや心の教育の必要性などについての記述が、日々指導されている教員の記述として挙がっていた。

③ A教員に対するアンケート調査結果（演奏会実施後）

演奏会終了後日、教員A本人に対して、生徒の様子、教員の反応などについてのインタビュー調査を実施した。以下に調査結果を示す。

表2のアンケート結果を考察すると、教員の意見として今回のアウトリーチのコンサートが情操教育の一環であることや純粋に音楽を聞き入っていたことなど教育面や自身の心の安らぎに繋がっていたということが見て取れる。生徒の反応については、混声4部合唱の声部を聞き分けて聞いてくれたことへの喜びや生徒たちの能力に対する新たな発見があり、口の開け方や旋律美についての感想を述べた生徒については、聴覚優先や視覚優先といった特別支援学校の生徒の音楽を通じた活動から個々の特性を再認識していた。また、ヴァイオリンの速いパッセージの演奏個所では生徒の動作などに大きな反応があり、速い腕の動きを視覚的に捉え、そのことに驚いたり、会場に反響する響きを体感し感動したり、生の演奏を通して様々な刺激を受けることで様々な反応を生徒が示していた。それぞれの曲の雰囲気を感じ取って演奏を静かに聞いたり、混声4部合唱の

重厚な響きにおもわず声を出して感動するといった反応から生徒たちがその場に応じた対応をし、素直な反応を示していたことが窺える。

教員A自身の感想からは、生徒にマナー学習の一環として演奏会に参加して欲しいことと、演奏をじっくり聞く態度を身に付けて欲しいというコンサートのねらいが改めて示され、生涯に渡って音楽を愛好する心情を育ててほしいという思いが窺い知れた。コンサートを実施するにあたり、会場設営、パンフレットの作成、お茶出し等一部の生徒に役割を持たせており、観客として音楽を鑑賞するだけではなく、自立支援に向けた取組がコンサートの中に組み込まれていたことが特徴として挙げられる。

今後のコンサートに向けては、地域交流や演奏者と一体となったコンサートを行うことなどの今後に向けた改善点が示された。

5. まとめ

今回の研究では、音楽のアウトリーチコンサートを作り上げるまでのプロセスを教員Aに対するインタビュー調査の内容を示すことで可視化し、コンサートに参加した教員に対するアンケート調査から得られた量的データや記述より得られた質的データを分析することで音楽のアウトリーチの有用性を検証した。

調査の結果から、「音楽のアウトリーチの継続実

施についてお聞かせください」の調査項目では、「是非継続したい」が7名(41.1%),「できれば継続したい」が10名(58.8%),「あまり継続したくない」、「どちらともいえない」と回答した者は0名であり、このことから大多数の教員が音楽のアウトリーチの継続実施を望んでいると言える。また、「今回の音楽のアウトリーチは生徒の教育に必要ですか」の調査項目では、「とても必要」が16名(94.1%),「やや必要」が1名(5.8%),「あまり必要ではない」が0名(0%),「必要ではない」が0名(0%)という回答であり、特別支援学校での音楽のアウトリーチは教育的な効果が期待できるものであろう。

また、「音楽のアウトリーチは、生徒たちのどのような能力を育むことに効果があると思いますか」の調査では、「感受性」、「表現力」、「想像力」の各項目で高い数字を示し、これらについては具体的な教育の場面で効果が見込まれることが明らかとなった。

コンサートでは、曲に合わせて体でリズムを取る生徒や、速度、強弱、転調個所で目を見開いた表情を見せるなど本当に素直な反応をする生徒が多数いた。今回の音楽のアウトリーチの活動を通じて痛感したことは、教育現場の実態を把握し、生徒の実態に即したコンサートの構築が必要不可欠であるということである。そして、より良いアウトリーチのコンサートを行うためには、演奏者側と教育現場側がコンサートの開催目的などの視点を持った上で議論を重ね、時間や予算などの制約の中で生徒に対して最善の教育的効果は何かについて検討し、実践することが求められていると強く感じた。

今回得られた、音楽のアウトリーチの実施によって生徒の「感受性」「表現力」「想像力」について教育的効果が期待できるという、有用な結果を踏まえ、今後も音楽のアウトリーチを通じ教育的効果を追求していきたいと思う。

謝辞

今回の実践研究では、F特別支援学校および演奏者間のパイプ役となって下さった前川先生を始め、管理職の先生方のおかげで、実践研究および当日のコンサートを終えることができました。お忙しい中アンケートにご協力いただき、大変有難うございました。

参考文献

- 1) 岡部裕美 鈴木香代子 「学校と演奏家の連携による音楽教育の可能性—継続的なアウトリーチ活動の事例を追って—」 千葉大学教育学部研究紀要 2010年 第58号 pp.109-120
- 2) 川添達也 小川彩由子 「鑑賞授業における音楽アウトリーチ活動の実践研究」 島根大学大学院教育学研究科 教育臨床総合研究第9号 2010年 pp.169-178
- 3) 津上智実 「ギルドホール音楽院のアウトリーチ教育」 神戸女学院大学 論集53号 2006年 pp.49-62
- 4) 新井恵美 木下大輔 「教員養成課程カリキュラムに取り入れた音楽アウトリーチ活動—宇都宮大学教育学部音楽教育専攻の実践例—」 宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀要第36号 2013年 pp.17-24
- 5) 壬生千恵子 「音楽教育におけるアウトリーチを考える—キャリア教育の視点とアウトリーチ—」 Japanese Journal of Music Education Practice vo.10 2013年 pp.63-69
- 6) 松原美保 「地域の芸術家を学校へ—音楽教育におけるアウトリーチの実践 小学校の事例から—」 音楽教育実践ジャーナル10巻 2013年 pp.52-55